

## 小学部

### (1) 小学部の教育目標

- ① 元気で明るい子 (健康な体と豊かな心を育てる)
- ② 仲よくする子 (集団生活に進んで参加しようとする意欲を育てる)
- ③ がんばる子 (最後まで頑張る態度を育てる)
- ④ チャレンジする子 (自ら行動する態度を育てる)

### (2) 教育課程の編成方針

- ① 本校の教育目標及び本年度の努力点を踏まえ、教育課程を編成する。
- ② 児童一人一人の実態を十分に把握し、健康安全面に配慮しながら、その発達段階に応じて弾力的な教育課程を編成する。
- ③ 体験的学習を行い、個々のもっている力を伸ばし「生きる力」を育む教育が図れるよう編成する。
- ④ ICF (国際生活機能分類) の理念に基づき、合理的配慮ができるよう「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、指導の充実を図る。
- ⑤ 児童の実態に応じて、ICT機器等の活用を図り、指導の効果を高める。
- ⑥ 近隣の小学校及び居住地校、地域社会の人々と交流する機会を積極的に設けることにより、経験を広げ、社会性を養い、望ましい人間関係を育てるよう配慮する。
- ⑦ 病弱の児童についての各教科、各領域の指導の重点、指導目標についてはⅠ類型、Ⅱ類型、Ⅲ類型を踏まえ実施する。
- ⑧ 病弱の児童については病気の状態等を考慮し、学習活動が負担過重にならないように十分配慮する。
- ⑨ Ⅰ類型の各教科の指導の重点については、小学校の学習指導要領に準ずる。その内容については、「小学校の学習指導要領」の各学年、各教科の年間指導計画を参照とする。Ⅱ・Ⅲ類型については、特別支援学校学習指導要領第3章に準ずる。

### (3) 各教科、各領域の指導の重点

#### ① 各教科

##### ア 生活

- (ア) 日常生活の基本的な習慣を身につけ、集団生活への参加に必要な態度や技能を養い、自立的な生活をするための基礎的能力と態度を育てる。

##### イ 国語

- (ア) 日常生活に必要な「聞く・話す」、「書く」、「読む」、などの基礎的な言語能力を育てる。  
(イ) 自分にできる方法で伝えたいことを表現する能力や態度を育てる。  
(ウ) 児童の発達段階に即した図書などに親しむ態度を育てる。

##### ウ 算数

- (ア) 算数的活動の楽しさに気づき、進んで生活に活用しようという能力と態度を育てる。  
(イ) 日常生活に必要な具体的な活動を通して、数量や図形について興味・関心をもつ。

##### エ 音楽

- (ア) 表現及び鑑賞の活動を通して、音楽のもつ美しさや楽しさを味わうようにする。  
(イ) 音楽を通して情緒の安定を図り、豊かな情操を養う。

#### オ 図画工作

- (ア) 様々な造形活動を通して、表現活動の楽しさや喜びを味わうようにする。また、造形活動について興味や関心を持つようにする。
- (イ) 児童生徒の作品や美術作品などを鑑賞し、それらのよさや美しさに親しみ、感性と豊かな情操を育てる。

#### カ 体 育

- (ア) 適切な運動の経験を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、健康の保持増進と体力の向上を図る。
- (イ) 健康・安全についての理解を通して、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

### ② 道徳科

- ア 自ら強く生きようとする意欲を高め、明るい生活態度を養うようにする。
- イ 学校の教育活動全体を通して、道徳的心情を育て、望ましい道徳的判断や行動ができるようにする。

### ③ 特別活動

- ア 個々の実態を考慮して、望ましい集団活動ができるように、心身の調和のとれた発達を促し、個性の伸長を図る。
- イ 集団の一員としての自覚をもち、協力してよりよい学校生活を築こうとする態度を育てる。
- ウ 児童の経験を広め、社会性や豊かな人間性を育む。

### ④ 自立活動

- ア 障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度を養い、心身の調和的発達の基盤を培う。
- イ 児童の身体の動きや意思の表出の状態等に応じて、支援技術や情報機器等の補助的手段を活用し、日常生活動作の拡大や、コミュニケーションの基礎的能力の育成を図る。
- ウ 学級と専科自立活動及び保護者、他の専門機関との連携を図り、系統的な指導で個々の児童の自立を目指す。

### ⑤ 各教科等を合わせた指導

#### ア 日常生活の指導

- (ア) 生活リズムを整え、健康の保持増進を図る。
- (イ) 日常生活における必要な基本的生活習慣を身につける。
- (ウ) 身のまわりのことを、進んで行う意欲や態度を育てる。

#### イ 遊びの指導

- (ア) 遊びの活動を通して、教師や友達等と関わりながらルールを守ることや遊ぶ楽しさを味わう。
- (イ) 遊びの活動を通して、生活経験を豊かにするとともに、感覚を活用した刺激に対応する能力を高める。
- (ウ) 遊びの活動を通して、情緒の安定を図りながら対人関係を深める。

#### ウ 生活単元学習

- (ア) 行事や自然の様子などに触れることを通して、興味・関心をもち生活経験を広げる。
- (イ) 生活上の課題に実際に取り組むことにより、社会生活に必要な基本的な知識・技能および望

ましい慣習・態度を養う。

(4) 交流及び共同学習の重点

- ① 近隣校との連携や交流を継続的に行い、積極的にみんなと仲良くできる態度を養う。
- ② 居住地の学校と交流することによって、地域の子どもとしての自覚やつながりを深める。
- ③ 地域社会の人々と共に活動する機会を積極的に設け、豊かな心を育てる。

(5) 生徒指導の重点

- ① 基本的な生活習慣の形成を図り、集団へ適応する態度を養う。

(6) 健康・安全教育の重点

- ① 家庭や関係諸機関との連携をとり、疾病、障害の程度等を考慮した集団、個別の指導の充実を図る。
- ② 学校・家庭・校外において常に安全な生活を営むために必要な知識・慣習・態度を身につける。
- ③ 各教科・領域との連携を取りながら、児童の実態に応じた性教育を行う。

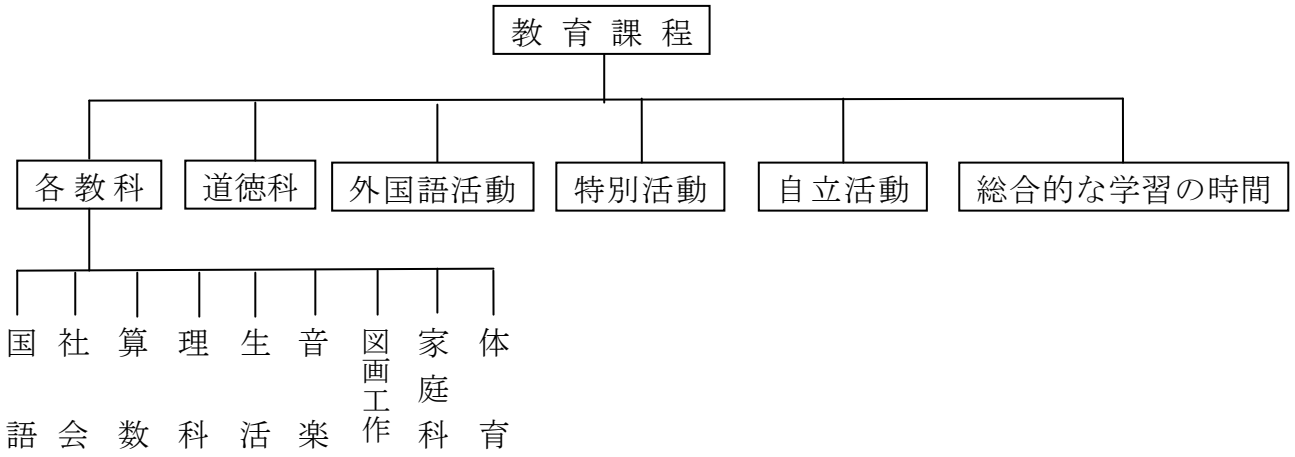
(7) キャリア教育の重点

- ① 生活のリズムを整え、健康状態の維持・改善を図る。
- ② 基本的な生活習慣の確立を図る。
- ③ 集団生活に適応する態度を養う。
- ④ 基礎体力・基礎学力を身につける。
- ⑤ 保護者との連携を密にして、進路についての意識を高める。
- ⑥ コミュニケーションの基礎的能力を育み、「伝え合う力」の育成を図る。

(8) 指導形態

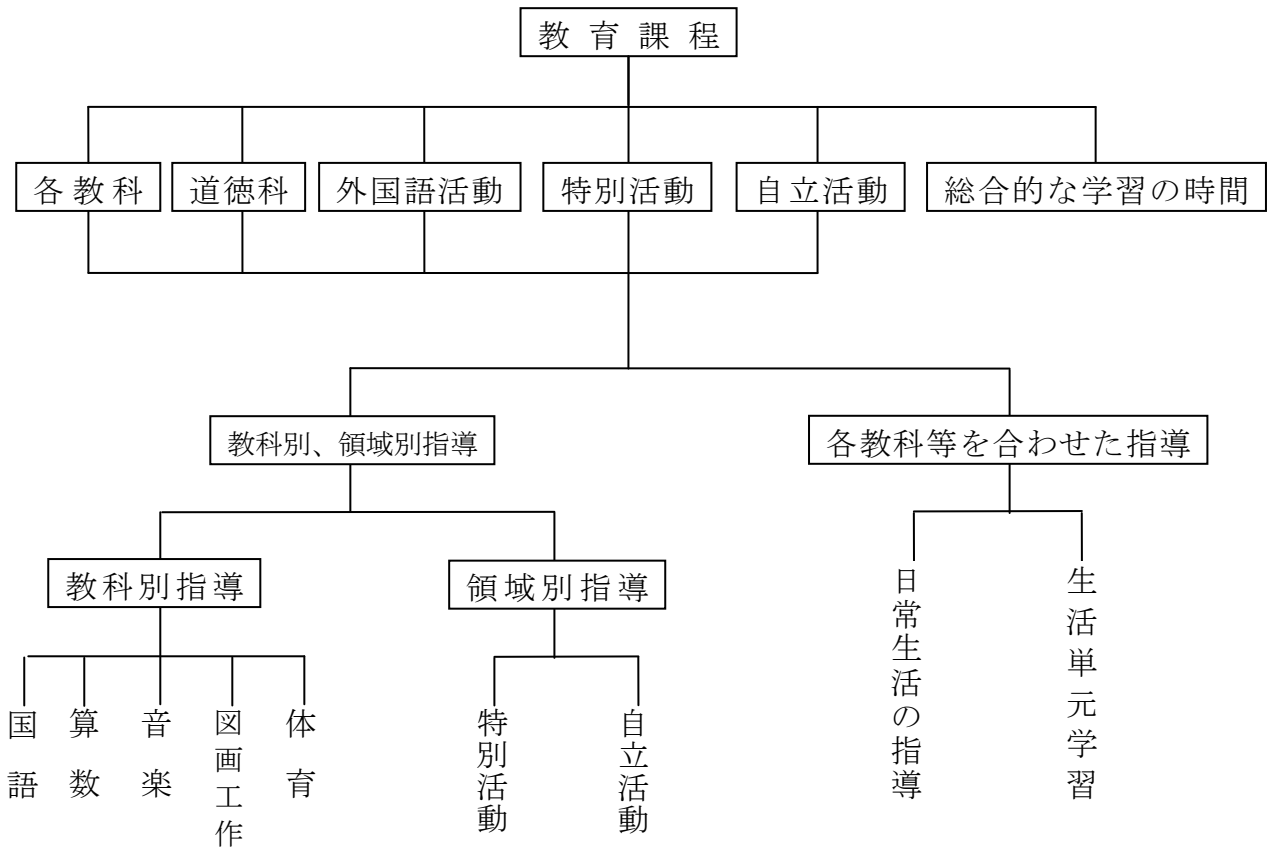
① 教育課程の構造図

ア I 類型

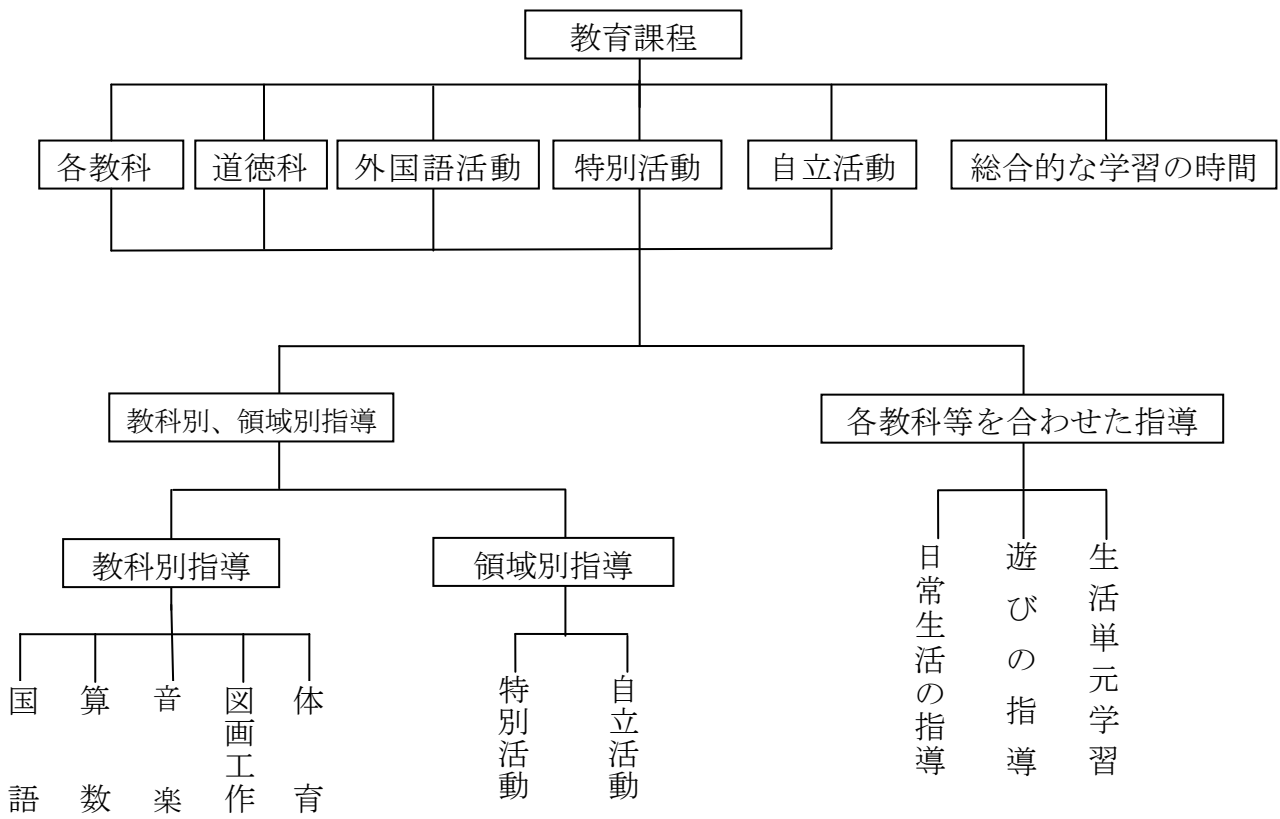


イ II 類型

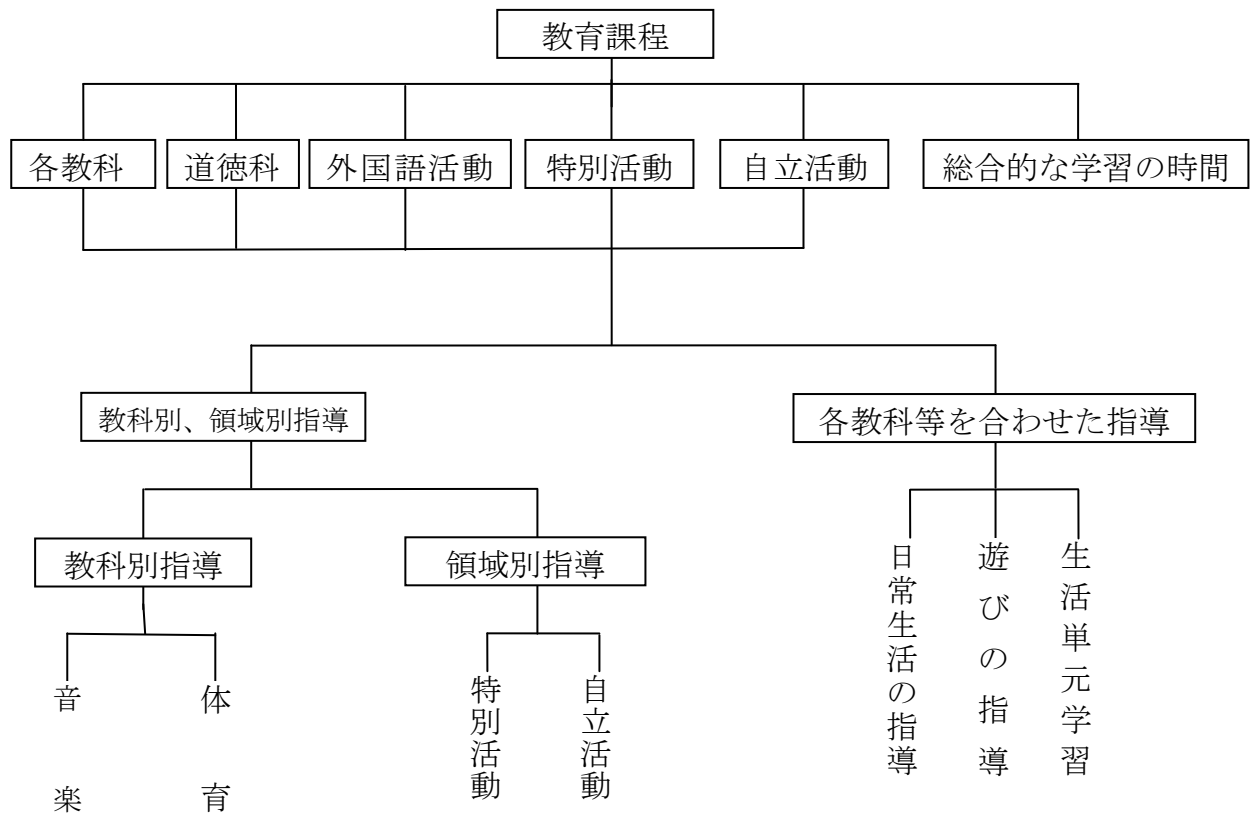
a II-A



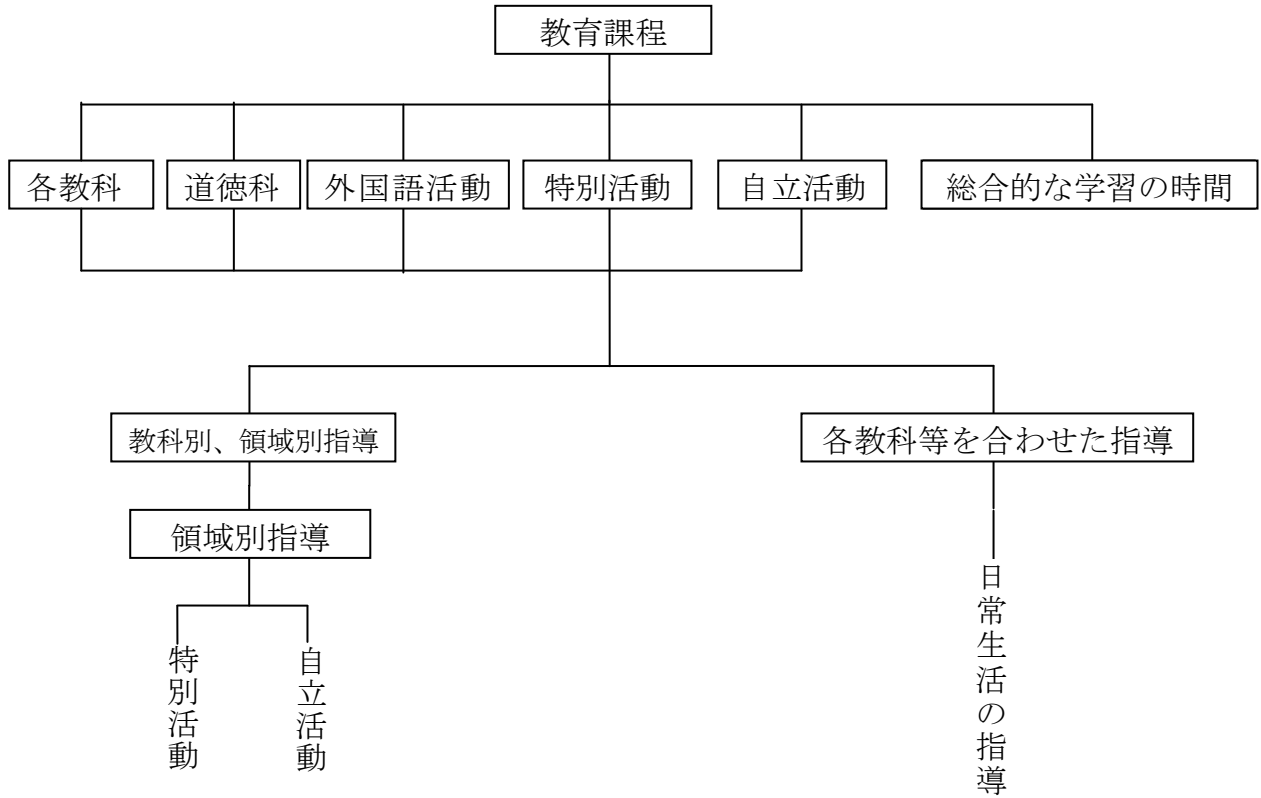
b II-B



c II-C

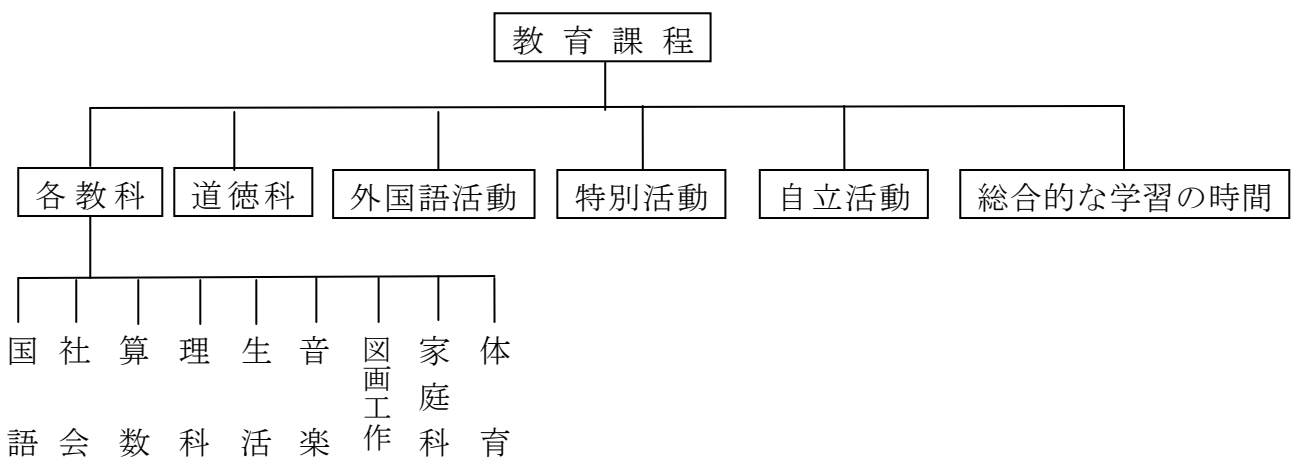


ウ III類型

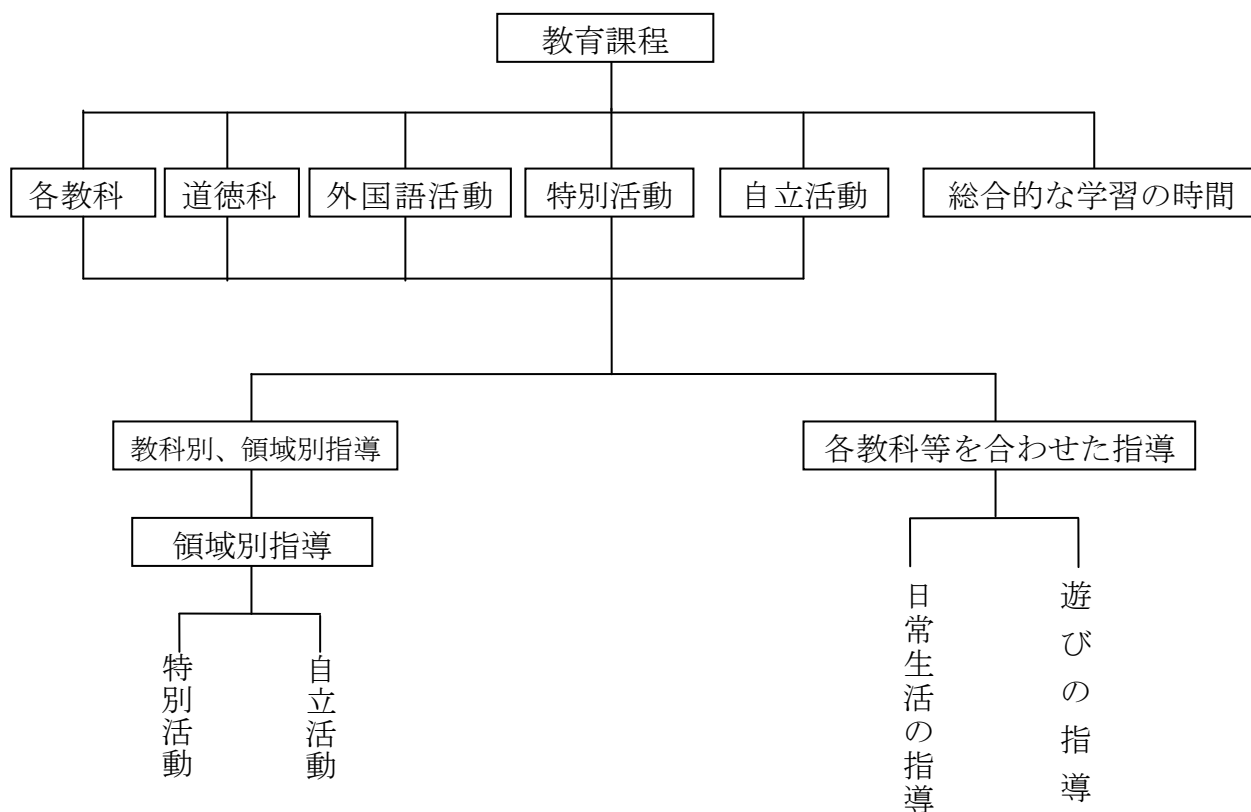


エ 訪問教育 ※以下の指導形態は、訪問及びスクーリングにおいて実施するものとする。

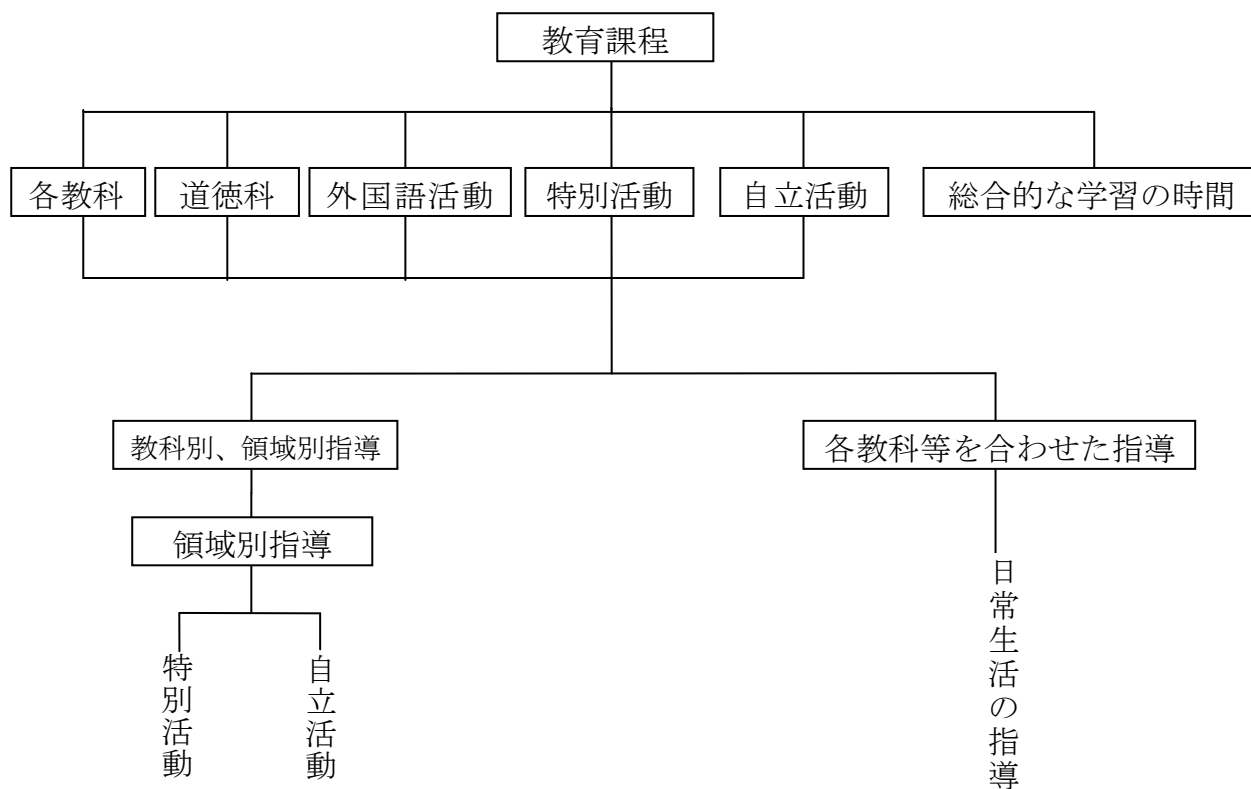
a I類型



b II類型



c III類型



② 指導のための集団構成の在り方，考え方等

- ア 教育課程は，Ⅰ類型[A，B]，Ⅱ類型[A，B，C]，Ⅲ類型とし、訪問教育はⅠ類型，Ⅱ類型，Ⅲ類型とする。
- イ Ⅰ類型においては，小学校の当該学年に準ずる教育及び下学年代替の教育を行う。
- ウ Ⅱ類型においては，児童の実態に応じて各教科等を合わせた指導及び教科別，領域別の指導を行う。
- エ Ⅲ類型においては，自立活動を主とする指導を行う。
- オ Ⅱ類型，Ⅲ類型においては，道徳は合わせた指導及び教育活動全体を通して指導を行う。
- カ 指導は原則として学級単位で行うが，領域，教科等によっては他学年，他学級との合同授業を行うこともできる。
- キ 自立活動は児童の実態に即し，個別又は集団で指導する。
- ク 訪問教育は，障害のため通学困難な児童を対象とする。基本的には，家庭での学習を行うが，学校行事や学部行事等のスクーリングも計画する。
- ケ 児童の実態に応じて，1単位時間の弾力化を図る。
- コ 児童の実態に応じて，基礎的・基本的な内容を系統的・発展的に配列する工夫をする。